

稲作

生育概ね順調 ただしほ場間差大きい
稲体にあわせた管理で夏を乗り切る

生育概況

6月25日現在、草丈は34.6cm、茎数は407本/m²、葉色は43.4、葉数は9.0葉となっています。
6月中旬以降、気温の日較差が大きくなり、日が続いたことで分げつの発生は促進されたと考えられます。また、田植えが遅かった地点では茎数が少ない傾向となっており、茎数の確保状況はほ場間差が大きい状況です。
今夏も気温が高いと予報されています。生育ステージの前進や病害虫・雑草の防除適期の変動などが予想されますので、適期を見逃さないようにします。

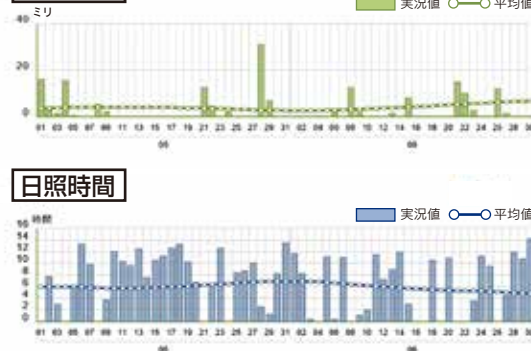
あきたこまち定点調査結果(6/25)

仙北地域振興局農業振興普及課数値
あきたこまち10地点の平均

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	SPAD値	葉数 (葉)
本年値	34.6	407	43.4	9.0葉
平年比	96%	101%	98%	+0.4葉
前年比	84%	109%	96%	+0.3葉

令和8年5～6月気象経過(大曲アメダス)

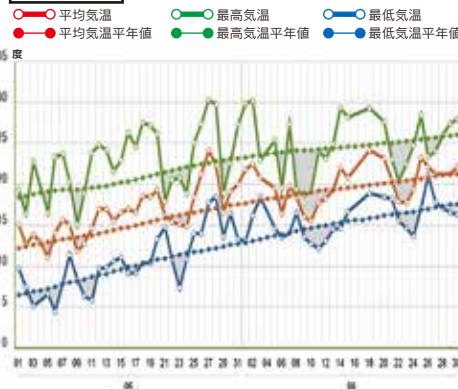
降水量



日照時間



気温



今月の栽培技術留意点

生育診断と穂肥

自身のほ場の稲がどのように生長しているのか確認してください。生育診断を基にして、倒伏に警戒をしながら、高温登熟を乗り切れる体力を持たせます。

雑草対策は斑点米対策

雑草があるほ場にはカメムシが多く潜んでいます。徹底除草で密度を減らし、薬剤防除で対策をします。

高温対策

天気予報を確認しながら、肥培管理と水管理を。地域で協力して用水を使いましょう。

安全作業の再確認

慣れた場所でも気を緩めず、細心の注意を払って作業をします。熱中症にも注意をしてください。



NOSAIから
農業者の経営努力で避けられない収入減少も加入で一安心!

収入保険

例えば…



自然災害で減収



取引先の倒産



市場価格が下落



病気で収穫不能

※詳しくはNOSAI秋田県南支所農産課

TEL.0187-66-9112

令和9年新規加入受付中



このページは秋田県農業共済組合との共同発行です。

今年もいます！斑点米カメムシ類

秋田県病害虫防除所より、6月30日に発表された令和8年度農作物病害虫発生予察情報第3号によると、斑点米カメムシ類(第二世代)の発生量はやや多いと発表されています。

元々のカメムシの発生量や、ほ場内外の雑草が多いと、出穂後に吸汁被害を発生させるカメムシが多くなります。斑点米が多すぎると高性能な色彩選別機でも1回で取り除ききれず、数回実施することで肌ズレ等の品質低下となってしまう。

耕種的防除(畦畔草刈り等)と薬剤防除を組み合わせて①カメムシ発生密度を減らす、②適期に薬剤防除、③場合によって追加防除で斑点米減少、歩留まりアップを狙いましょう。ノビエやホタルイ等カヤツリグサ科雑草が多いと、斑点米カメムシ類をほ場内に誘引する原因となります。雑草が残っている場合は後期除草剤で徹底除草をしてください。

防除概要

① 出穂期10日後頃に薬剤防除(1回目)を行います。

② 薬剤防除(1回目)後、7日後までに畦畔や農道の草刈りを実施し、カメムシの増殖源となる雑草を除去します。

③ その後、稲の収穫2週間前まで草刈りは禁止です。

④ 薬剤防除(2回目)を実施する場合は、出穂期24日後頃とします。

⑤ 法面や休耕田などで薬剤防除をしない雑草地は、稲の出穂15～10日前までに草刈りを実施し、その後、収穫2週間前までは草刈りを行いません。通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、今後の発生予察情報に留意しながら必要に応じて追加防除を検討します。



アカスジカスミカメ

成虫で4.6～6mm。背側中央部に紅色の条がある。ノビエ、ホタルイ等カヤツリグサ科雑草の穂に産卵する。イネにはほとんど産卵しない。飛翔性あり。

水田周辺の草刈り時期

	6月		7月		8月
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
農道畦畔 法面休耕田等	草刈り期間		おぼこ一斉草刈りデー 7/17～20 出穂10～15日前までに草刈りを終わらせる。		カメムシ防除まで草刈り禁止
	8月		9月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
本田防除	スタークル剤散布 1回目防除 出穂期10日後頃	エクシード剤 キラップ剤散布 2回目防除 出穂期24日後頃			
農道畦畔	出穂期10日後頃のスタークル剤散布後に草刈りを！ (アカスジカスミカメの増殖源を消去)	草刈り	収穫期 2週間前	草刈り	収穫期
法面 休耕田等		草刈り禁止	収穫期 2週間前	草刈り	収穫期

散布時期	薬剤名	希釈倍率/散布量 (10a当たり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤D L	3kg	収穫 7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍/60～150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	エクシード粉剤D L	3kg	収穫 14日前まで	2回以内
	エクシードフロアブル	2,000倍/60～150ℓ		
	キラップ粉剤D L	3kg		
	キラップフロアブル	2,000倍/150ℓ		

斑点米カメムシ類
防除薬剤

薬剤耐性の発達を防ぐため、1回目と2回目の防除は違う薬剤を使用してください(薬剤ローテーション)。
また、散布時はドリフト(飛散)に注意して使用してください。

生育診断実施で、
倒伏、高温登熟に備える

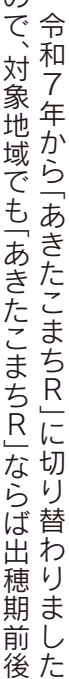


いもち病対策は
早期発見・早期防除が鉄則

カドミウム対策

近年は、高温が続いており紋枯病の発生が多くなっています。発生を抑えるには葉色を濃くしすぎない、過繁茂にしないことがポイントです。最近増えてきたなど感じたら、下記薬剤を使用するか、翌年の紋枯病対応の箱処理剤使用を検討しましょう。

近年增加中「紋枯病」



※特別栽培等栽培基準が決められている場合は、それに従ってください。 ※農薬散布時にドリフト（飛散）しないようご注意ください。

フェーン時は水管理で地温冷やせ！

出穂期10日後頃
斑点米カメムシ類 1 回目防除
スタークル剤

出穂期24日後頃
点米カメムシ類 2回目防除
ワシード剤またはキラップ剤

1回目防除後7日後までに草刈り

草刈り禁止期間（収穫14日前まで）

飽水管理・間断かん水

排水不良田落水期

切り跡活用し実らせよ

夜温 25℃以上は水入れ替えで地温冷やせ！

白未熟粒発生警戒期

切り遅れ注意